



「ふり返り」は次への一歩

暦の上では立春から春ですが、ようやく本格的に季節が巡ってきたことをやわらかな日差しや土の匂いから感じる今日この頃です。子どもたちにも、日々うつろう自然の中に春の訪れを発見できる感性と知見を身に付けて欲しいと願っています。

3月、学校は今年度のふり返りを行い、まとめと来年度の計画を立てる1年間の中で重要且つ忙しい時となります。

6年生は3月19日(水)卒業式を迎え、小学校の教育課程を終え、次のステップへ歩みを進めます。本校に入学してからの6年間、心身共に大人へと近づき、多くのことを考え、学んでくれたことと信じています。本校で得た力を基礎とし、自己実現を図るため、自信をもって充実した中学校生活を過ごしてくれることを切に願っています。

5年生はいよいよ在校生を導き、学校を創る最高学年へと歩みを進めます。「6年生を送る会」の企画・運営を筆頭に、これまでに会得してきた力を発揮し、思いを具現化する実行力と、最高学年としての自覚を身に付けていってくれることでしょう。

このように、それぞれの学年において次の学年へと歩みを進めるための準備を行いますが、その準備の重要な視点に「ふり返り」があります。

「ふり返り」は、自分を客観的に見つめ、自己分析することで、今の自分に何ができて、何が足りないのか、何ができるようにならないといけないのか、といったことを自分で問うことのできる力を養うための重要な取組です。「ふり返り」では、できるようになったことを書かなくてはならないとか、反対にできていないことの反省を書かなくてはならないといったように思いがちですが、そうではありません。重要なのは、「客観的に自分を見つめる力」です。

この力を子どもたちが身に付けることは難しいことです。だからこそ、くり返しや励ましが必要なのです。ご家庭でも「よくがんばった」という言葉だけではなく、子ども自身の「ふり返り」を認め「いいふり返りができているね」と、がんばろうとしている過程を応援し、次ぎにつながる励ましの声かけをよろしく願います。

「勉強させられる場」から「学びの場」へ

この写真、第一小学校のある場所で撮影した写真なのですが、お分かりでしょうか。

本校校門の一番近くにある通称「会議室」と呼んでいる教室です。



日頃は、児童が下校バスの待ち合わせに使ったり、PTA活動に活用されたりしている教室なのですが、この教室で、月に1回「パステル画教室(大人の文化教室)」を開催していただけることになりました。いただける・・という言葉の通り、学校からの依頼に応えてくださった取組なのです。

取組のねらいは大きく2つ。1つ目は、子どもたちに学びに向かう大人の姿から「自ら学ぶことのすばらしさ」を感じてもらいたいこと。2つ目は、教職員や保護者以外の大人との関わりをもたせたいことにあります。ですから、休憩時間に子どもたちが絵画教室を訪ねることを止めもしていませんし、来校された皆さんには、「ぜひ授業の様子を観たり、子どもたちと話をしてみたりしてください」とお願いしています。それはコミュニケーションによる次ぎのような効果をねらっているからです。

例えば、話の中で互いに意味の通じない言葉がある(言葉は時代とともに変化する)ことに気づいたとしましょう。それはお互いに新鮮な出来事であり、その言葉の意味を知るとは、大人にとっても子どもにとっても新たな「学び」となります。また、子どもたちは、学校で自分ができるようになったことを自慢するようになるかも知れません。子どもたちにとって、どこかのおじさんやおばさんが「すごい」「上手」と誉めてくれた言葉は、社会的評価としてきっと心の中で大きなエネルギーに姿を変えると私は信じています。なにより学校を「勉強させられる場」から大人も子どもも関係ない「学びの場」へと変えて行きたいのです。

今後、賛同いただけるさらに多くの方々と協力しながら、子どもたちにとってはもちろんのこと、学校が地域の学問・文化・芸術の中心地と再びなれるよう取組を進めて行きます。